

日本共産党品川区議会議員

**菊地貞二**

週刊区政ニュース第374号

09年11月01日発行

# 公衆浴場が無くなってお風呂にも入れない！

## わずか8年で54件から40件に減少

**健康課長：入浴は「体の清潔を保つ、それが健康につながる」ということです。このため、これは重大な問題」**

公衆浴場は地域住民にとってコミュニケーションの場として、また風呂のない賃貸アパートも多く、公衆浴場の減少はくらしに係わる大きな問題となっています。議会では補助の増額と経営支援、公立浴場の設置を求めました。

右のタイトルは公衆衛生上、入浴の位置づけを問いただした際の答弁です。

品川区は、公衆浴場の経営支援のため各種の助成をおこなっています。高齢者を対象とした「出会の湯」などそのひとつですが、ライフスタイルの変化、内風呂の増加などで利用者は減少しています。その結果、8



年に54件あった公衆浴場は08年には40件に減少しています。それでも一日の利用者数は150人とい

**品川区では3万人余が風呂なし世帯**

全国統計調査によると入浴設備がないという居住形態が20%（区は5%としている）。都心部の家賃や不況によって職を失う労働者が増加



は高齢者施設や学校、  
保育園、公園などの施設をはじめ、商店や交通手段の整備などが不

可欠のものです。そのうちの重要な施設のひとつが公衆浴場ではないでしょうか。

### 南品川地域には一件もなし

南品川で訪問調査をおこないましたが、地域には木造アパートなども点在しており、住者には深刻な問題です。

経営者自身も高齢化が進む中で、休業を余儀なくされる事態はさらに広がっていきま

### 入浴機会の保障も行政の役割

そもそも南品川にあった公衆浴場はすべて廃業しています。東大井の地域、南品川と隣接

する地域に一件あるのみで、休みであれば東品川、大井二丁目まで足を運ばなくてはならず、高齢者には厳しい

品川区は「区立浴場の設置は民間の経営を



港区では公衆浴場がなくなった地域に区立の公衆浴場が設置されています。管理は浴場組合に委託しています

品川区は「区立浴場の設置は民間の経営を

- ① 銭湯ゼロ地域では新設し、廃業を予定する浴場は経営権を買い取り管理を委託する。
  - ② 高齢の経営者には休業しなくても可能なように雇い入れ人件費の補助をおこなう
  - ③ 銭湯の利用をあげるために利用者補助をおこない入浴料の低減をはかるなどの措置。
- コミュニティの復活と区民の健康管理に配慮することも行政の大切な仕事です。

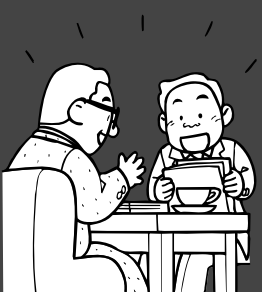


## 無料法律相談会 (生活相談は随時)

ところ すずらん通り事務所

日時 10月30日 (金)

午後6時～8時



前日まで15742-6818までお電話を下さい。